地學雜誌

JOURNAL
OF
GEOGRAPHY

東京地学協会

TOKYO GEOGRAPHICAL SOCIETY
Founded in 1879

2005 VOL. 114

NO. 1

表紙写真

ブラジル・パンタナール、雨季に浸水するカピバリ川の氾濫原

Inundated Flood Plain of the Capivari River in the Rainy Season, the Brazilian Pantanal

パンタナールは、ラムサール条約や世界遺産（自然遺産）に登録された、世界最大級の低層湿原である。カピバリ川は、その中の代表的な間欠河川の一つで、乾季（5月～10月）には水がほとんど消失して緑の大草原になるものの、雨季（11月～翌年4月）には水位が上昇して広大な浸水域となる。写真は雨季の終わり（4月末）に上空から撮影したもので、低地を求めて大きく蛇行するカピバリ川の網状流と、その周辺の浸水しない微高地のカンボアルトが認められる。氾濫原内部のカンボアルトに点在する多数の白い点は、ファゼンダに粗放牧されているウシである。また、カピバリ川に沿って森林のコルジリエイラが展開し、その内部には円形湖沼のバイアや、窪地状低地のバイシャーダが分布している。世界屈指の生物多様性は、このような多様なビオトープの存在に支えられている。

（写真・文：丸山浩明 Hiroaki MARUYAMA）